



森田 充議員

**Q** 本市の防災・減災への考えは

**A** 災害時の対応には自助、共助・公助がバランスよく働く必要がある

**Q** 公助を最大限に発揮するためにも自助、共助の更なる意識向上が重要では。

**A** 近年、自然災害が頻繁化、激甚化していることから、自助、共助の意識向上は以前にも増して重要と考えている。自助としては、防災マニュアルの全戸配布、広報ひこねへの特集記事の掲載、各種SNSの活用など積極的に災害に関する情報を広報している。共助としては、各種媒体で必要性について広報しているほか、地域コミュニティである自主防災組織の結成・活動のサポートや防災講習会への講師派遣等を実施している。

**Q** 市民への「黄色いタオル」「ロケットストーブ」の啓発活動は。  
**A** 「防災出前講座」等において、「黄色いタオル」は今後も積極的に啓発活動し横展開を図り、「ロケットストーブ」も必要に応じて紹介をしていく。



その他の質問

- ・ 8 がいけ社会の到来予測は
- ・ 将来の展望を明らかにすることは未来の世代への責務では
- ・ ファシリティマネジメントの見える化が必要では



▲防災用品ロケットストーブ・黄色いタオル



野村 博雄議員

**Q** 全国統計で放課後児童クラブや認可外の保育施設で複数件死亡事故が発生しているが見解は

**A** 研修や調査、関係機関との連携強化等安全な保育に一層努める

**Q** こども家庭庁の「令和5年教育・保育施設等における事故報告集計」で、全国統計で初めて放課後児童クラブで死亡事故が複数件発生しているが理事者の見解は。

**A** 本市では毎年事故防止マニュアルを見直し委託事業者に周知徹底しており、支援員等研修の開催や関係機関との連携強化等、様々な角度から安全な保育に一層努める。

**Q** 全国統計で認可外の保育施設で複数件死亡事故が発生しているが理事者の見解は。

**A** 施設数や利用児童数を比較すると、認可外保育施設での死亡事故発生率は、他の保育施設に比べてかなり高いと認識しており、立ち入り調査や報告の徴収を県からの権限移譲により実施し、県と連携して安心・安全な保育に努めていけるよう対応していく。



その他の質問

- ・ ごみのポイ捨てやペットのふん害について
- ・ 避難所等の電源確保等について
- ・ 金城子ども園と地元業者の関わりについて

	負傷等(※2)				死亡(※2)	計	
	遺失不明	骨折	火傷	その他			
幼稚園認定子ども園	567	2	471	2	92	1	568
幼稚園認定子ども園	31	0	24	0	7	0	31
保育所認定子ども園	117	0	91	0	26	0	117
認可外認定子ども園	2	0	1	0	1	0	2
幼稚園	38	0	35	0	3	0	38
認可保育所	1,267	19	949	1	296	1	1,268
小規模保育事業	17	1	7	0	9	1	18
家庭内保育事業	1	0	1	0	0	0	1
認可訪問型保育事業	1	0	1	0	0	0	1
事業所内保育事業(認可)	2	0	2	0	0	0	2
一時預かり事業	2	0	2	0	0	0	2
幼児保育事業	0	0	0	0	0	0	0
子育て援助活動支援事業(ファミリーサポート・センター事業)	2	0	2	0	0	0	2
子育て支援事業(ひこねスタイルライオウスタイル)	0	0	0	0	0	0	0
放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	648	1	551	0	96	3	651
企業主導型保育施設	27	1	22	0	4	0	27
地方単独保育施設(※1)	5	0	4	0	1	0	5
その他の認可外保育施設	34	0	25	0	9	3	37
その他の認可外保育施設	2	0	1	0	1	0	2
計	2,763	24	2,189	3	547	9	2,772

▲施設ごとの事故の概要



中川 睦子議員

**Q** 石丸氏とのトークライブの企画運営に問題はなかったのか

**A** 急な開催であったが、彦根市にとって重要で意義のあるもので問題ない



## その他の質問

- ・国保料を見直して市民負担を軽減することについて
- ・高齢者や学校現場の熱中症対策について

**Q** 石丸氏とのトークライブの目的は。

**A** 集客力のある著名人で彦根市の魅力を市内外の人に発信することで、交流人口の増加やふるさと納税の推進を目指すもの。

**Q** 企画への経費の詳細は。

**A** 会場費19万120円、参加記念品の名刺代は3万8,502円、合計22万8,622円。

**Q** 費用はどこからねん出し、費用の流用は適正か。

**A** 広報経費の事業の中で財政課との協議を行いながら、必要最小限にとどめており適正。「1日市長」の企画の位置付けは。

**Q** 彦根市の魅力の発信と観光振興を図るとともに、本市の交流人口の増加やふるさと納税推進につなげていくことを目的にした。

**A** 口の増加やふるさと納税推進につなげていくことを目的にした。

**Q** 今回のイベントの企画運営に問題はなかったのか。

**A** 急な開催で予算の流用があったが、彦根市にとって重要で意義のあるもので問題はない。



▲トークライブ会場になった平和堂HATOスタジアム



森野 克彦議員

**Q** 不登校が原因で同学力の生徒が進学する進学先に進学ができないことはあるのか

**A** 進学先の合否判定については、各進学先の判断に委ねられており把握していない



## その他の質問

- ・フリースクールの利用補助と同じく、不登校の児童生徒が個別に学力の維持向上に取り組むための費用も補助すべきではないか

**Q** 不登校が原因で同学力の生徒が進学する進学先に進学ができないことはあるのか。

**A** 進学先の合否判定については、各進学先の判断に委ねられており把握していない。なお、県立高校においては、今年度実施される高等学校入学者選抜から、個人調査報告書の「欠席の記録」欄を廃止することとなっており、不登校が理由で不利益を被ることがないように配慮されている。また、不登校児童生徒が欠席中に学習を行った場合や、教室以外の場所で学習している場合でも、不登校の児童・生徒の努力の成果を適切に評価するよう、国の方針に基づき、各校に通知している。

**Q** 不登校の生徒が、同学力を有する生徒と同じ進学先に合格できた実績はあるのか。

**A** 実績については把握していない。

## 予算常任委員会

### 議案はいずれも原案のとおり可決

予算常任委員会は、9月17日(火)に委員会を開催し、4件の議案について慎重に審査しました。

#### 【審査】

- ・議案第63号、議案第64号、議案第65号  
議案第66号

#### 【主な質疑】

- 議案第63号に対して
  - Q 学校支援・いじめ対策事業における心の健康観察モデル事業の詳細は。
  - A 稲枝中学校と稲枝西小学校をモデル校に選定し、登校時に子どもたちが心の調子を端末に入力し、回答内容に応じて担任、養護教諭、スクールカウンセラーへ対応をつなげるもの。
  - Q フリースクール等利用児童生徒支援補助金の増額理由は。
  - A フリースクールの利用者が増加しており、その施設の利用料金の上昇に伴う増額である。

#### ○議案第66号に対して

- Q 設備更新に対する医師の反応は？
- A 医師へのアンケートを通じて優先的な改善点を収集したうえで更新するため、労働環境が向上することが期待される。

#### 【主な討論】

#### ○議案第63号に対して

- 反対 ふるさと納税に依存した今回の予算は、財政の安定性が不透明であり、各課の工夫と市民との信頼関係が重要。また、子どもセンターの指定管理業務が市民の声を反映せず、市の都合で子育て支援事業が進む懸念があるため、補正予算に反対。

#### 【結果】

- ・議案はいずれも原案のとおり可決

## 市民産業建設常任委員会

### 議案はいずれも原案のとおり可決

市民産業建設常任委員会は、9月18日(水)に委員会を開催し、3件の議案について慎重に審査しました。

#### 【審査】

- ・議案第69号、議案第70号、議案72号

#### 【主な質疑】

- 議案第69号に対して
  - Q 条例改正の趣旨である、ふるさと彦根応援寄附の用途を拡大する理由は。
  - A 特定事業だけではなく、本市が行う全ての事業に対して活用できるよう、柔軟に対応するため。
- 議案第70号に対して
  - Q 一度提案された料金設定を再度見直し変更した理由は。
  - A 特別史跡彦根城跡内の更なる文化財の利活用を検討する中で、御書院棟や地震の間棟の利活用について、調整が整ったため。
  - Q 条例の施行日を10月1日にした理由は。
  - A 秋の期間に合わせるため。

#### ○議案第72号に対して

- Q 周知の仕方はどのようにするのか。
- A 周知として何か大々的にするということは今のところは考えていない。実際に市営住宅の募集をかける際には、ホームページや広報等でお知らせする。
- Q プライバシーの保護に関して、本市では条例改正することによってどのように考えているのか。
- A 既存の入居者に対して、特に誰が入居されるか説明することはなく、一定プライバシーは守られる。
- Q 年齢を制限した理由は。
- A 児童養護施設に入所できる最長の年数が22歳までのため。22歳を超えてもご相談があれば、市営住宅で対応できるように考えていきたい。

#### 【結果】

- ・議案はいずれも原案のとおり可決